

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

第十四回 大学祭開催

第十四回大学祭が六月二十三日(土)、二十四日(日)に開催されました。今年のテーマは「Everything from Here」二度とないこの瞬間」でした。

今年も天候不順の影響で、屋外ステージが中止となり、急遽メイנסテージをアリーナに移設する手段が取られました。屋外は最高気温十四度ほどで、六月末としては肌寒い天候でしたが、学生の熱気によってその冷気も吹き飛ばされ、若さはじける大学祭となりました。



来場者は六〇〇名を超え、多くの市民の方々にご来場いただきました。看護の体験教室は土曜日のみの開催でしたが、小さいお子さまから大人の方々までたくさんの方に参加いただき、車イス移動体験や、AEDによる心肺蘇生法体験などを見て触れていただきました。本学ならではの催しとして定着しているヘルスチェックコーナーでは、身長をはじめ体脂肪率から骨密度まで健康状態を確認していただけました。北見工業大学と合同で組織されている吹奏楽部の演奏会は本学アリーナを温かな音で満たしていただき、様々な珍しい食べ物提供された模擬店は本学のサークルが主体となって九店舗出店され、美味しい物をほおぼる参加者の皆さまが印象的でした。さらに北見を代表する薄荷童子による「よきこい」そして後夜祭において打ち上げられた花火が、第十四回大学祭に華を添えました。また来年も素晴らしい大学祭が企画・実施されることを願っています。



平成二十四年度

オープンキャンパス

七月二十二日(日)と九月二十三日(日)の両日に、平成二十四年度本学オープンキャンパスが開催されました。参加者は、高校生をはじめ、保護者、引率の先生の方たちが、北見市内をはじめ、旭川、帯広、釧路方面からお越しいただきました。七月二十一日(日)には、二〇一名の方たちが参加されました。また、九月二十三日(日)には一九一名の方たちが参加されました。オープンキャンパスでは、はじめに講堂での教育概要、キャンパスライフ、入試概要の説明が行われました。その後、模擬授業が行われ、模擬授業に参加された方たちは、真剣に講義を聴講していました。看護の実体験コーナーでは、参加者実際に看護技術を体験していただきました。この体験から看護の雰囲気を感じていただき、看護師への憧れを強く持つていただけではないでしょうか。進学相談では、看護学部で学べる分野や内容についての紹介や相談が行われました。在学生対談コーナーでは、在学生に学生生活や入試のことなどを直接聞くなど交流の機会となりました。学食体験コーナーでは、実際に学生食堂で食事をする事ができ、参加者の方たちの笑顔に包まれていました。

オープンキャンパスでは、実際にキャンパスライフの雰囲気を知ることができ、本学をより深く知っていただけたのではないかと思います。オープンキャンパスにご参加いただいた皆様、どうもありがとうございました。



平成二十四年度

赤十字災害救護訓練

平成二十四年九月三日・四日に伊達市にて歴史の杜カルチャーセンターにて、日本赤十字社北海道支部平成二十四年度赤十字災害救護訓練が行われ、本学から学生十名と教員三名が参加しました。

訓練一日目は、訓練総監の伊藤義郎氏(北海道支部 支部長)の挨拶や東日本大震災からの学びや災害拠点病院の役割についてなどの特別講座がありました。午後からは「START方式によるトリアージ」の実働訓練があり、本学学生が負傷者役となり、トリアージの実施と判断の検証が行われました。

訓練二日目は、早朝から訓練会場の隅にテントを設置し、会場ではdERU展開訓練や炊き出し訓練が行われる中、本学学生も「炊き出し訓練」さながら、粉から練り↓発酵↓成形↓揚げという行程を経て、「揚げパン」を作りました。完成した「揚げパン」を炊き出しの昼食と共に参加者へ配布したところ、食後のデザート感覚で食べていただき好評でした。午後からは、実働訓練での被災者役としてメーキャンや包帯固定・点滴等の準備を行い、伊達赤十字看護専門学校の学生と共に実働訓練に参加しました。この実働訓練は、有珠山噴火を想定した屋外での災



害救護訓練で、一次トリアージが行われた後の二次トリアージ、応援救護班の受け入れ、DMATとの協働、重篤患者の後方支援といった訓練が本番さながらに行われました。被災者役の学生は、一生懸命に指定された状況の演技をして負傷者になりきっていました。訓練後は、被災者役を体験しての緊張や不安を取り除く「リラクゼーション」、気持ちや感想を述べ合う「フィードバック」を受けました。学生からは、看護者の優しい声かけや対応が嬉しかった・安心した、一人にされて不安になった等の感想があり、この体験を通して、負傷者の気持ちの理解ができ、看護者としてどのように対応すればよいか等多くの学びを得ていました。



ポスター部門で優秀賞を受賞

最近二十〜三十歳代の女性に増えている子宮頸がんは、発見が遅れば子宮だけでなく、命も失うことにもなる疾患です。しかし、子宮頸がんは「予防できるがん」です。このことを若い女性に知ってもらい、検診受診やワクチン接種につなげるため、子宮頸がんの征圧を旨とする専門家会議では、横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクトとタイアップし、ポスターとメッセージの募集を行いました。全国からポスター六十三作品、メッセージ一七作品が寄せられ、「最優秀賞」各部門一名、「優秀賞」ポスター部門六名・メッセージ部門五名が決定されました。その中で本大学三年生の佐野真理子さんと越田真理さんのそれぞれがポスター部門で「優秀賞」を受賞しました。



3年生
越田 真理



3年生
佐野真理子

私は子宮頸がんや予防ワクチンのことは大学の講義でシャロン先生から教わるまで知りませんでした。子宮頸がんは特別な人ではなく性交経験がある女性なら誰でもなりうる病気です。がんが進行すると死にかかわることもあります。しかし、子宮頸がんは、ワクチンで予防することができます。自分の大切なからだを守るためにみなさんに予防ワクチンがあることを知ってほしいという気持ちでポスターをつくりました。優秀賞に選ばれてとてもうれしいです。

今回、優秀賞の連絡を頂き大変嬉しく思っています。子宮頸がんは、検診によって早期発見が可能なのであり、原因が明確であるため唯一予防が可能なのであることを本学で学びました。そこで、子宮頸がん予防のため、検診を受けることが、自分のため、自分の未来のためになるということを力強く訴えました。ポスターを製作するに当たって、子宮頸がんについて学ぶ機会を与えてくださった方々に感謝しております。

サマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジ

東日本大震災で被災した子どもたちは教育および生活の環境の変化に伴う精神的ストレスを受けた生活を送っています。日本赤十字社は平成二十四年度東日本大震災教育支援事業として「日赤キッズクロスプロジェクト」を立ち上げ、北海道留寿都村にてサマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジを七月末から八月末の一ヶ月にわたり開村いたしました。クロスヴィレッジには、被災した岩手県、宮城県、福島県に住む小学校五、六年生と中学校一〜三年生約三、六〇〇名が招かれました。このプロジェクトのサポート要員として、本学から一年生二十三名、二年生

六名、三年生二十二名、四年生十一名の総勢六十二名の学生がボランティアとして出動いたしました。初めてのプロジェクトに対し、最初は戸惑いもあったようですが、多方面から来られたボランティアの方々や協働して、子どもたちにより良いプログラムを提供しようと奔走してくれました。プロジェクト終了後、大学に帰着した学生達の日焼けした笑顔と充実感あふれる感想を聞くと、子どもたちからたくさん元気をいただいたように感じました。赤字の大学の学生として、この経験を様々な場面で生かしていただけたことが子どもたちへの恩返しに

平成二十四年度サイエンス・パートナーシップ

独立行政法人科学技術振興機構の支援事業である「平成二十四年度 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」として採択された講座型学習活動「命の制御・心臓の働きを科学する」を、平成二十四年八月十一日(土)、十二日(日)の二日間、本講座の連携機関である北海道北見北斗高等学校、北海道北見柏陽高等学校、北海道北見緑陵高等学校の一〜三年生三十四名の参加を得て開催しました。

本講座は、現在の義務教育課程および高等教育課程での授業時間の削減により障害されている科学分野における実験や実習といった「リアル」教育を多種多様な人材・技術と高度な医療機器がある本学が提供し、将来、生命に関わる仕事を希望する受講生が科学を学ぶ意義と動機を確立することをねらいとしています。

今回は、心臓と血管の構造やバイタルサイン(生命徴候)についての講義、実際に動物を用いて心臓の動きを見たり、またいろいろな状況で変化するバイタルサインや心電図・筋力測定などの実習を行いました。受講生は頭と体の両方をフルに使った二日間を目を輝かせ活き活きと楽しそうに過ごしていました。将来有望な医療職者の卵の皆さんに多いに期待しています。



日赤キッズクロスプロジェクト
サマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジ
～平成24年度東日本大震災教育支援事業～

サマーキャンプ2012
in
クロスヴィレッジ

KIDS CROSS Project

日本赤十字社
事務局 教養・福祉部
東日本大震災復興支援推進本部

なると思います。ボランティアに参加した皆さま、大変お疲れさまでした。

ひらめき★ときめきサイエンス

『未来の自分が楽しく子育てするための体験学習』を開催して

本学では、九月一日、独立行政法人日本学術振興会の委託事業で、平成二十四年度採択された『未来の自分が楽しく子育てするための体験学習』を中学生対象に行い、北見市内の十四名が参加しました。ひらめき☆ときめきサイエンスは、大学で行っている最先端の科研費の研究成果について小学校五・六年生、中学生、高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。今回のプログラムは、現代の情報化社会で正しい情報を選択し、自分が親となり、楽しく子育てするために育児模擬体験を通して考えていただけるようにしました。参加者は、「新しい生命の誕生」の講義を聴講し、その後、「自分の考える赤ちゃん・親のイメージ」をグループワークして、イメージしてからさまざまな体験学習を行いました。体験学習は、実際に泣く赤ちゃんモデルを使用し、抱っこ・授乳(ミルク)、実際に離乳食の試食の体験、模擬便を用いたオムツ交換、沐浴の見学と実施、妊婦シミュレーション体験、子育て体験談を実際に子育て中のお母さんに伺いました。

参加者からは、「普段あまりできないことを学ぶことができた。子育てを体験することができて楽しかった。また来たい。」という感想が多く寄せられました。最後に、受講者全員に、河口学長から「未来博士号」の修了証書が授与され閉会となりました。参加者・協力者の皆さんお疲れ様でした。



『目に「見えない」しようがいをもつ人と、会って、話して、遊んでみよう』

「ひらめき☆ときめきサイエンスは、大学で行っている最先端の科研費の研究成果について、小学校五・六年生、中学生、高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。本学では小・中学生及び高校生を対象にしたひらめき☆ときめきサイエンス『目に「見えない」しようがいをもつ人と、会って、話して、遊んでみよう』(実施代表者：日本赤十字北海道看護大学 看護学部 講師 吉谷 優子)を、三十三名の子どもの参加のもと、平成二十四年九月二十九日(土)に開催しました。将来を担う子ども達が障がい者と触れ合う機会を設け、障がいの中で、特に見た目にはわかりにくい「精神障がい」を持つ人との交流を通して、障がいの多様性と必要な支援、「ノーマライゼーション」実現について考える機会を設けることを目的にこのプログラムを考えました。地域の障害者就労支援施設に通う精神障がい者(社会福祉法人北の大地)の通所利用者の方等の協力を得て実施しました。子ども達、学生アルバイトを交えて七グループに分かれ、障がいの体験、

障がい者との交流の体験、などを語り合いながら、「ノーマライゼーションが実現された将来のまち」という絵を各グループで作成した後、相互にグループの作品を発表して、楽しみながらノーマライゼーションを考えました。最後に受講者ひとりひとりに柳原学部長から修了証書が手渡され、「未来博士号」が授与されました。



学年表彰にUNSN

学年表彰の受賞者が決定し、表彰式が行われましたのでお知らせします。学年表彰は前年度の総合成績の最上位者を表彰するもので、表彰式は、七月三十日、学長室で執り行われ、表彰状と奨学資金が贈呈されました。

- 平成二十三年度学年表彰
- 伊藤 芹佳さん (二年)
 - 田村 浩美さん (三年)
 - 佐藤久美子さん (四年)

編集後記

Viva Kango 第三十五号をお届けします。大学祭、オーブンキャンプ、赤十字災害訓練などの行事を中心に掲載しました。今年は、十二月になつて一気に寒さと雪が到来しています。どうぞ皆様体調に留意されてお過ごしください。

日本赤十字北海道看護大学内誌
Viva Kango
 第35号

発行日/2012年12月28日
 編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
 TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
 mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
 http://www.rchokkaido-cn.ac.jp